

早明浦ダム再生事業の進捗状況 (令和8年2月版)

早明浦ダム再生事業推進室

撮影日: 令和8年2月20日

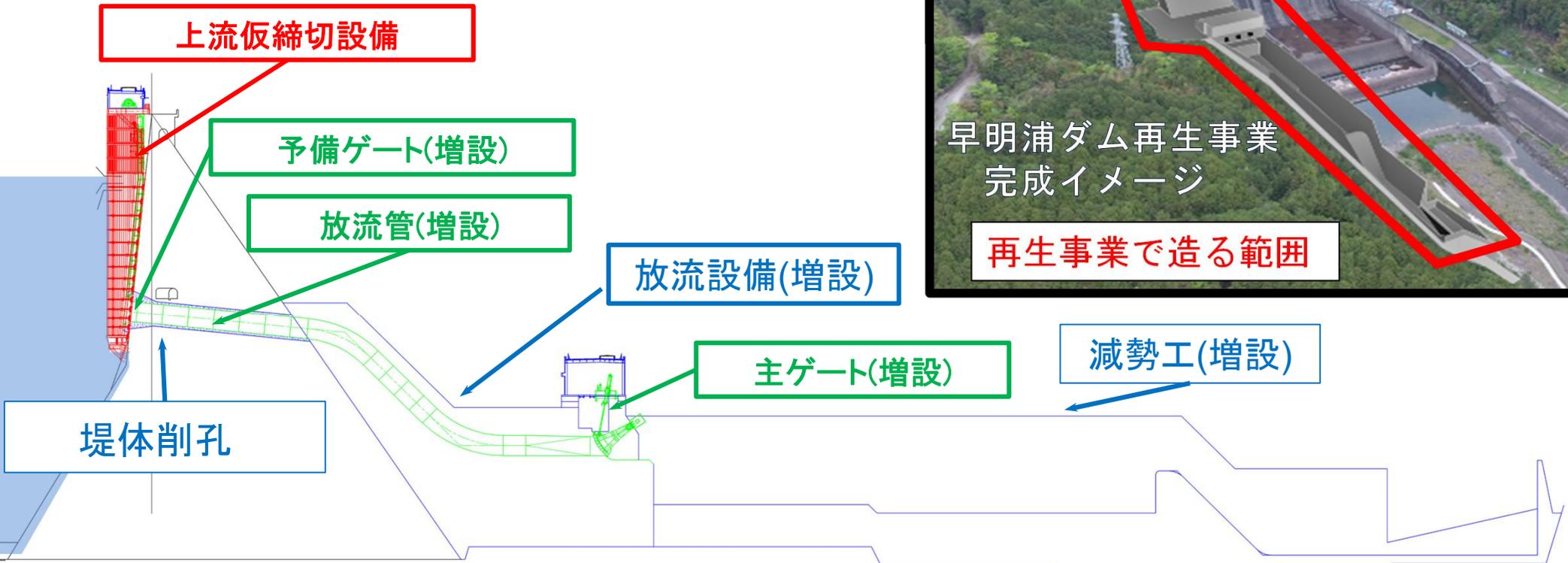
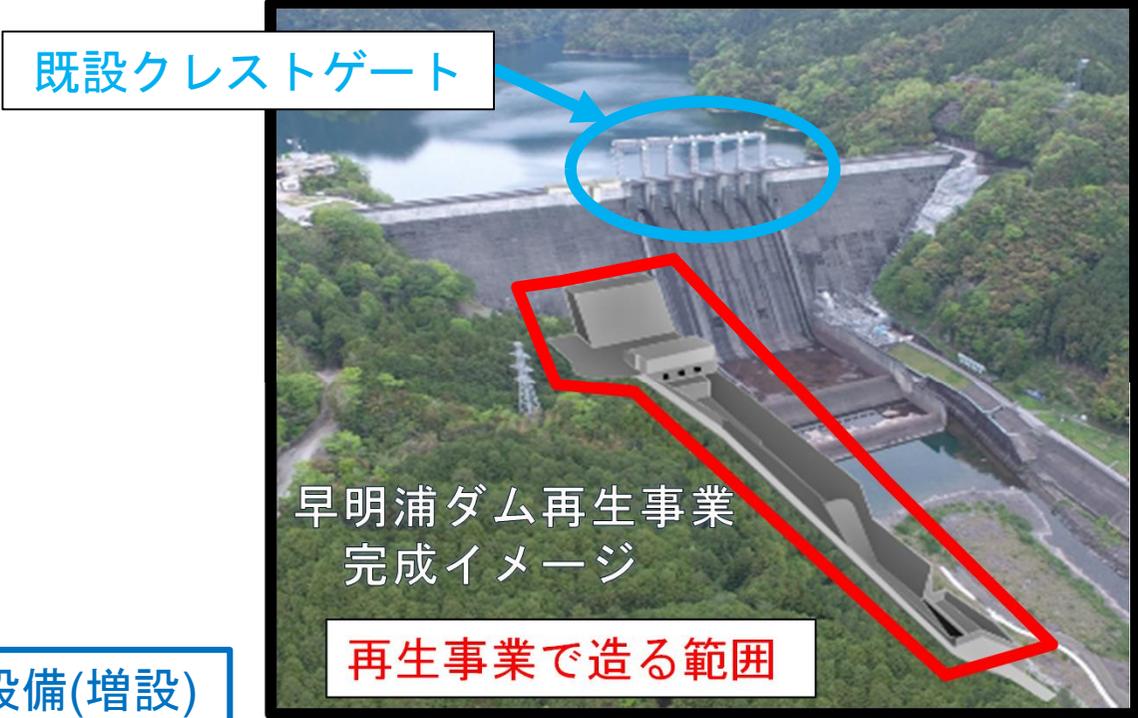
工事進捗状況

撮影日: 令和8年2月20日



早明浦ダム再生事業 断面図

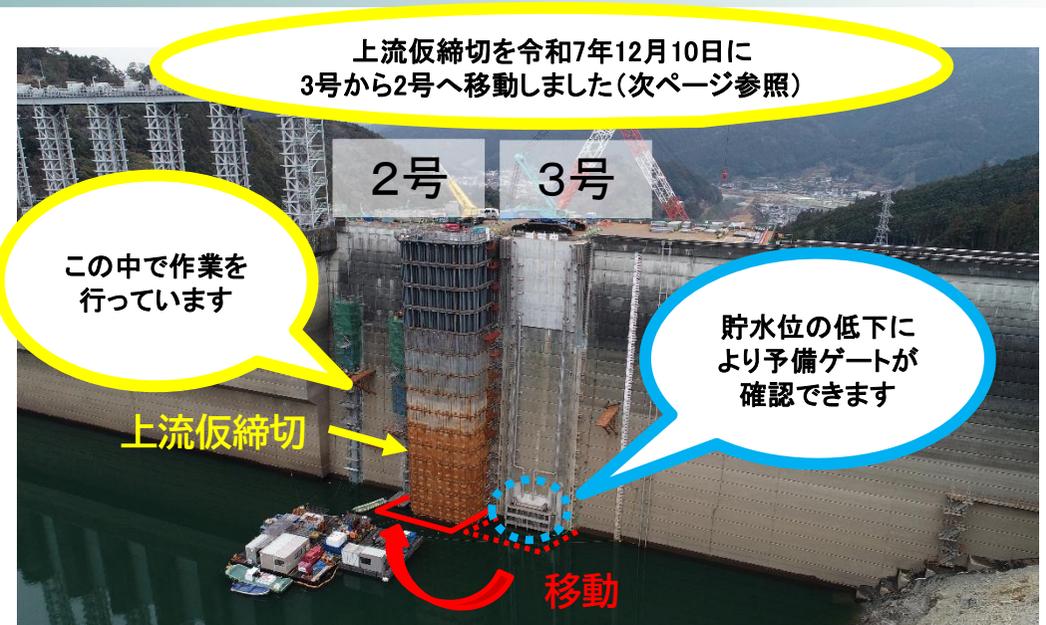
- 上流仮締切設備工事(カナデビア・IHI JV) 上流仮締切設備(仮締切扉体、緊定金物、鋼製台座) 等
- 増設洪水吐き工事(大林・佐藤JV) 堤体削孔、放流設備・減勢工 等
- 増設放流設備工事(豊国工業・佐藤鉄工JV) 予備ゲート、放流管、主ゲート 等



①ダム上流側工事



令和6年8月



令和8年2月

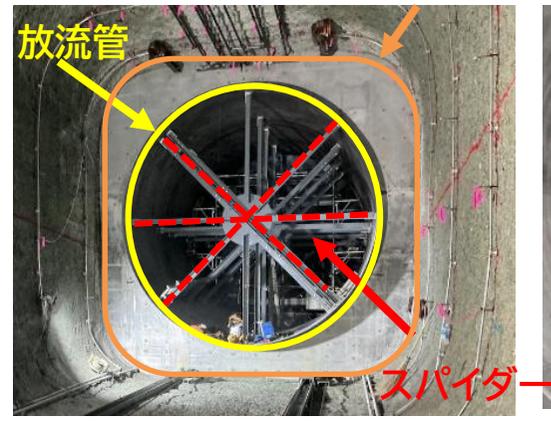
コンクリート充填部



上流仮締切内の様子
(上から見た写真)

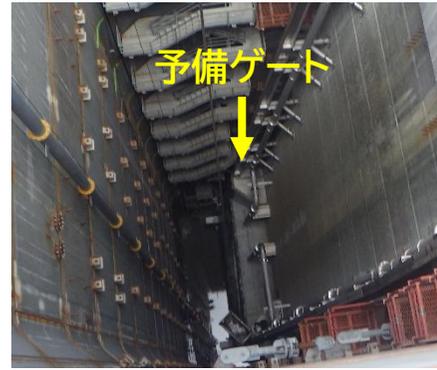


堤体削孔部に設置した放流管の一部
左:放流管据付 右:放流管の周りにコンクリート充填後
(堤体削孔の下流側から見た写真)



令和7年10月 3号放流管内
(スパイダー撤去後の写真)

①-1上流仮締切移設の流れ



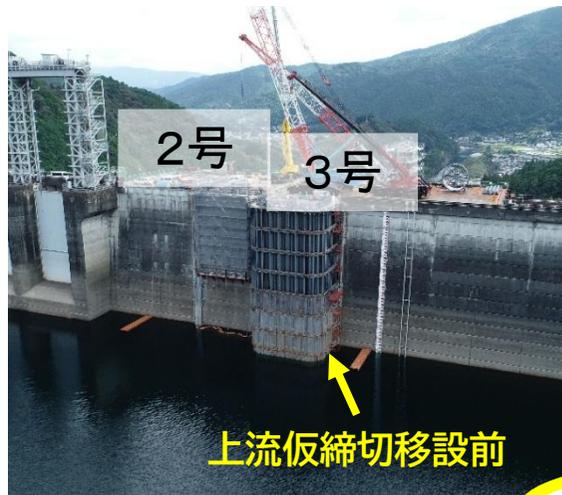
上流仮締切上流側から見た予備ゲート



3号放流管下流側から見た予備ゲート

予備ゲート設置状況

予備ゲート設置により、3号に設置していた上流仮締切の移設が可能になり、次の貫通予定孔である2号(左隣)へ、全18段中9段の浮体式扉体の移設を行いました。上流仮締切の浮体式扉体の移設は国内初の作業です。



3号の設置状況



移設作業中



2号の設置状況

①-2 上流仮締切浮体式扉体とは

浮体式

浮上り防止金物

高さ53m(上流仮締切として国内最高:R6.11月時点)

53m

2.1~3.4m

スキンプレート

浮力室

浮体式の単ブロック

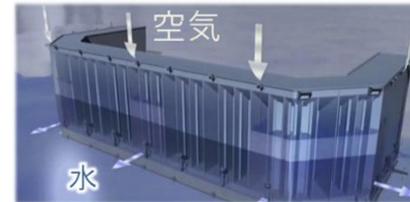
約13m

扉体の中に空気を入れてクレーンで吊る重さを軽減させることで、扉体同士を連結したままクレーンで吊って隣の場所へ移設します。この方法により移設に必要な日数を短くすることができます。

扉体の浮力調整機構

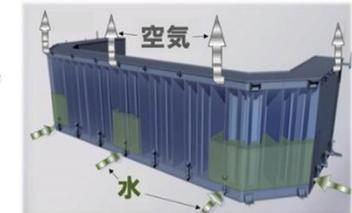
扉体浮上操作時

空気を圧入して扉体内の水を強制排出させて浮力を得る



扉体沈降操作時

水をダム湖より注入し空気を自然排出させて、浮力を下げて沈降させる



多数の堤体削孔を順次行う場合、扉体を一体のまま隣の施工か所に移設でき、工程短縮が可能

浮力により吊り重量が軽いため、一体のまま吊って移設できる



従来方式は一段ずつ撤去・移設

②ダム下流側工事

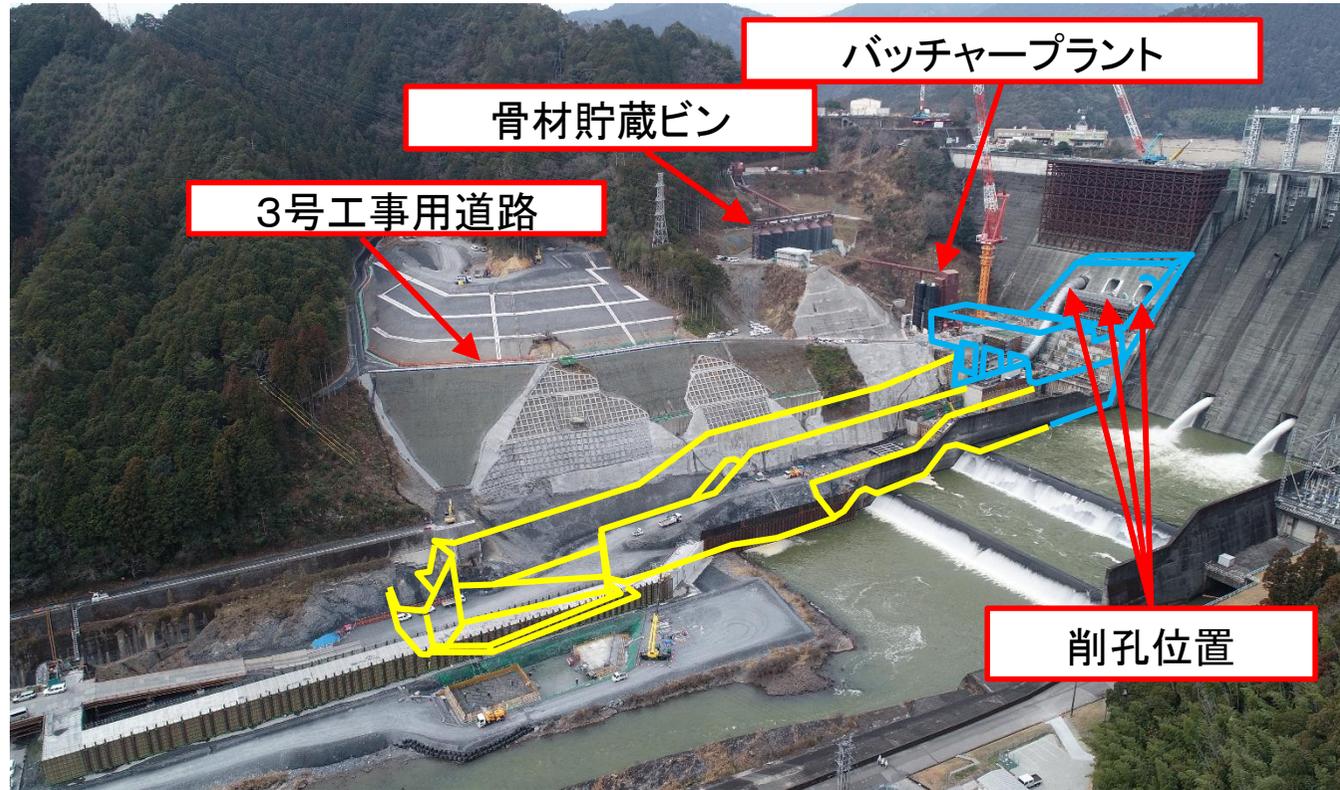


令和6年8月



令和8年2月

③ダム下流側工事



令和8年2月(現在)



令和6年8月(撮影当初)



令和7年9月



令和7年11月

④ 堤体削孔および放流管設置



〈堤体削孔の進捗〉 R8.2月末

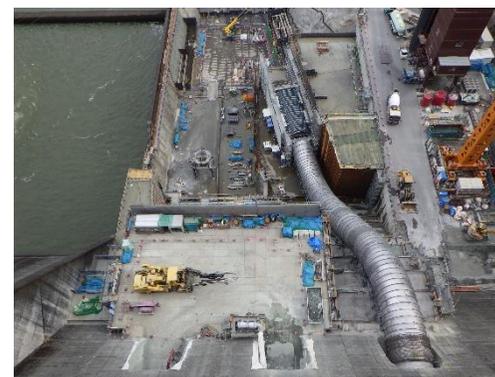
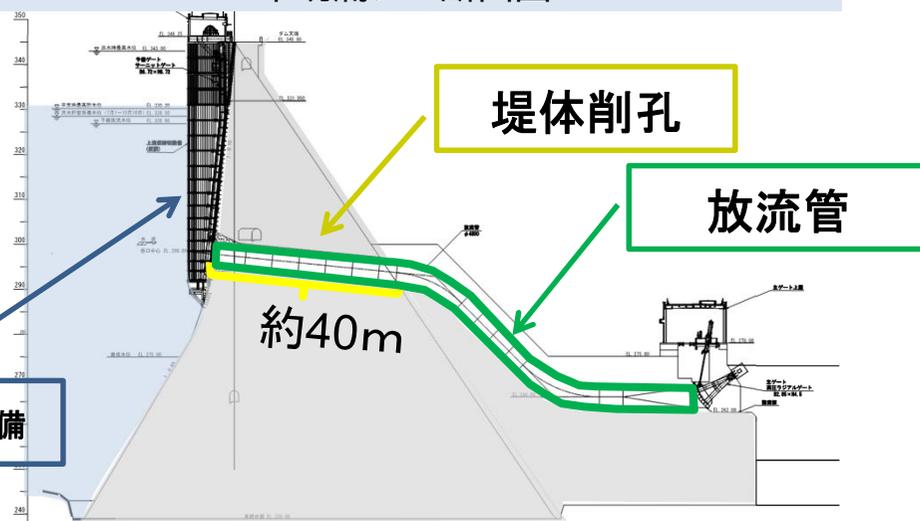
	削孔延長	削孔済の長さ
1号	約40m	約33m
2号	約40m	約36m
3号	約40m	約40m(貫通)

〈放流管設置の進捗〉 R8.2月末

	設置延長	設置済の長さ
1号	約118m	—
2号	約122m	—
3号	約119m	約100m

※ベルマウス部を含む

早明浦ダム断面図



放流管設置中(令和8年2月)

④コンクリート打設



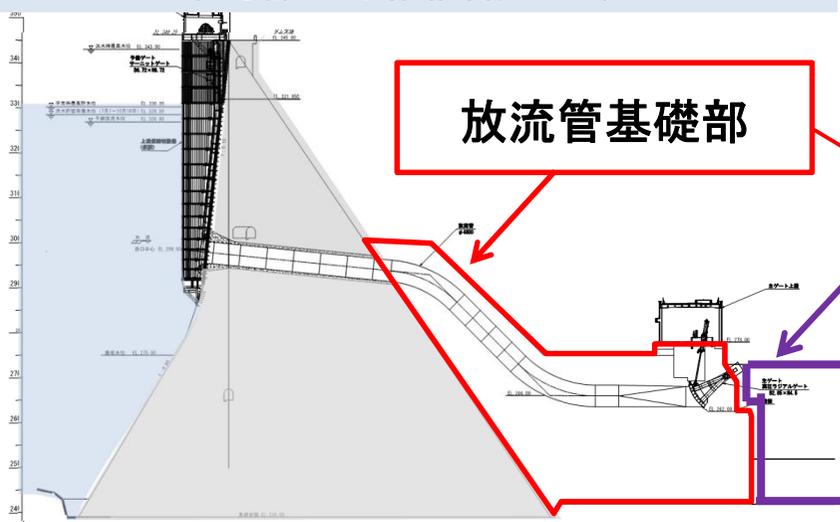
〈基礎掘削の進捗〉R8.2月末

総掘削量	掘削済みの量
約160,000m ³	約 122,000m ³

〈コンクリート打設の進捗〉 R8.2月末

総打設量	打設済みの量
約180,000m ³	約 63,000m ³

早明浦ダム断面図(横から)



減勢工

早明浦ダム設計図(上から)

